

# 平成19年度 学校自己評価シート (埼玉県立熊谷商業高等学校)

目指す学校像 (ミッション)	学習意欲と自立心・自制心を高め、行動力・実践力のある生徒を育成する
本年度の 重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基礎・基本を重視した「分かり易い授業」を工夫し、学習意欲の喚起と向上心の育成に取り組む。</li> <li>2. 基本的な生活習慣の確立と、達成感・成就感を身につけた生徒を育む。</li> <li>3. 三年間を通じた進路指導計画を定着させる。</li> <li>4. 情報発信に努め、地域や中学校等にかかれた学校づくりを推進する。</li> </ol>

年 度 当 初					最 終 評 価 (2月)		
番号	評価項目	現 状	具体的な方策	評 価 指 標	経過・達成状況等	達成度	次年度への課題と改善策
1	授業改善への 取り組み	基礎・基本を重視した学習により確かな基礎学力の定着につとめるとともに、専門的な知識・技能の理解を深め検定資格取得により自らの存在感や充実感を持たせ、自己の進路実現を目指す生徒を育成する。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 基礎・基本を重視した「分かり易い授業」を実施し学習意欲を高める。</li> <li>2 家庭学習の習慣化に向け宿題の機会を増やす。</li> <li>3 シラバスを活用により、年間計画や目標を明確にし、生徒が自己評価を実施する。</li> <li>4 成績不振の生徒への学期毎の対応方法について見直す。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 方策に関する研修会を通して、職員間の連携が図れたか。</li> <li>2 宿題の活用において工夫がなされたか。</li> <li>3 シラバスを有効に活用し、生徒が自己評価を実施できたか。</li> <li>4 成績不振者への対応において教科担当と担任間での情報交換や保護者との連携への工夫を通して、成績不振者の数を昨年度よりも10%減らすことができたか。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 生徒アンケートから見ると「理解でき」「分かりやすい」と回答した生徒が約70%だったことから、さらに授業改善と工夫が必要である。</li> <li>2 家庭学習は、考査前や検定前にはやるが、普段はあまりやっていない現状である。</li> <li>3 1年生と3年生には、配布し、2年生にはプリントを配布した。</li> <li>4 例年と同じ程度の成績不振者数となっている。</li> </ol>	B	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 授業改善に向けた研修会を開催する。</li> <li>2 各教科ともに宿題を課し、家庭学習の習慣を生徒に身につけさせる。</li> <li>3 シラバスは全生徒に配布して、教科指導・教科選択に役立てられるように活用を図る。</li> <li>4 学期毎に保護者を召喚して指導をする。また、各教科の年間達成目標を明確にし、評価、評定基準等や課題の出し方等について検討する。</li> </ol>
2	生徒指導への 取り組み	高校生としての自覚と誇りを持たせ、規律を守り人に迷惑をかけない学校生活を過ごさせる。また、生徒一人一人の能力や特性を認め伸ばさせるとともに、心豊かな生徒の育成を図ることを目指す。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 基本的な生活習慣を育成する。</li> <li>2 責任ある行動を育成する。</li> <li>3 安全教育・禁煙教育・薬物乱用防止教育を推進する。</li> <li>4 教育相談を充実する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 基本的な生活習慣が身につくように指導し、自主性・主体性を持たせることができたか。</li> <li>2 責任ある行動がとれるように指導し、充実感や達成感を持たせることができたか。</li> <li>3 自他の生命を尊重し、安全な生活が送れるよう暴力行為・不審者等の被害・交通事故・喫煙・薬物乱用の防止に努めることができたか。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 定期的、継続的な指導により、遅刻指導対象者が減少した。</li> <li>2 懲戒に関わる指導を受けた生徒が減少した。</li> <li>3 各種講演会、登校指導等により規範意識の向上につながった。</li> <li>4 教育相談室を活用することにより、生徒の持つ不安や悩みの解消の支援になった。</li> </ol>	B	<p>引き続き教員の共通理解のもと指導につとめ、規範意識の向上・整容指導に努める必要がある。</p> <p>心に問題をもつ生徒が増えており、問題の早期解消に向け、担任・学年・外部機関等との一層の連携に努める。</p>
3	進路実現への 取り組み	進路意識の高揚を図り、進路実現のための「就職・進学」希望者への説明会・進路相談やガイダンス機能を活かし、三年間を通じた指導計画の定着を目指している。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 校内の進路説明会や進路相談をさらに充実する。</li> <li>2 進路指導体制を充実する。</li> <li>3 外部講師を活用して、進路ガイダンスを充実する。</li> <li>4 就職希望者の面接指導を充実する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 進路説明会や進路相談後の生徒の進路意識は変化したか。</li> <li>2 進路指導部と学年との連携はとれているか。</li> <li>3 外部講師を活用したガイダンスに生徒は積極的に参加していたか。</li> <li>4 面接指導に生徒は積極的に参加していたか。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 実施後に生徒の意識は高まっている。</li> <li>2 連携は概ねとれている。</li> <li>3 生徒は積極的に参加した。</li> <li>4 進路部、学年、PTA等の指導に参加し、成果がみられた。</li> </ol>	B	<p>学年ごとの進路指導の効果的な取組を継続させる。また、改善すべき点は前向きに検討し、進路意識を向上させ、希望の進路実現を支援する。</p>

達成度 A:十分達成 (100%) B:概ね達成 (80%程度) C:変化の兆し (50%前後) D:まだ不十分 (30%前後) E:目標、方策の見直し (20%以下)

平成19年度 学校自己評価シート (埼玉県立熊谷商業高等学校)

目指す学校像 (ミッション)	学習意欲と自立心・自制心を高め、行動力・実践力のある生徒を育成する
本年度の 重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基礎・基本を重視した「分かり易い授業」を工夫し、学習意欲の喚起と向上心の育成に取り組む。</li> <li>2. 基本的な生活習慣の確立と、達成感・成就感を身につけた生徒を育む。</li> <li>3. 三年間を通じた進路指導計画を定着させる。</li> <li>4. 情報発信に努め、地域や中学校等にかかれた学校づくりを推進する。</li> </ol>

年 度 当 初					最 終 評 価 (2月)		
番号	評価項目	現 状	具体的な方策	評 価 指 標	経過・達成状況等	達成度	次年度への課題と改善策
4	開かれた学校づくりの推進	地域貢献事業に積極的に参加し、地域社会との交流の中でPR活動に努めている。また、中学校との情報交換を通じて中高の相互理解が深まるように努めている。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 本校の活動を紹介する広報誌の配布を拡大する。</li> <li>2 地域行事や貢献活動へ積極的に参加する。</li> <li>3 中学校訪問を実施する。</li> <li>4 中高相互の生徒・教員の交流の機会を増やす。</li> <li>5 学校見学を積極的に受け入れる。</li> <li>6 公開講座を実施する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 広報誌の発行を増加させ、中学校・市役所・公民館等に配布することができたか。</li> <li>2 生徒・職員が地域行事に参加できたか。</li> <li>3 中学校訪問を定期的に行うことができたか。</li> <li>4 中高相互の生徒・教員の交流が円滑にできたか。</li> <li>5 学校見学の希望が受け入れられたか。</li> <li>6 公開講座参加者が講座に対して満足したかどうか。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 中学校には頻りに配布することができたが、公民館等に配布することができなかった。</li> <li>2 部活動や授業で老人ホームでの行事や市の行事にに参加できた。</li> <li>3 定期的な全教員による中学校訪問を行うことができた。</li> <li>4 部活指導や地域補導等で中学校の教員との交流が盛んに行うことができた。</li> <li>5 学校見学希望者に対して、全て受け入れることができた。</li> <li>6 少人数参加ではあったが、参加者は、講座に満足していた。</li> </ol>	A	本校の教育活動を積極的に保護者、地域に公開して、本校の良さを広めていく必要がある。また、本校の教育活動に地域の教育力を導入し、地域との連携する必要がある。

達成度 A：十分達成 (100%)    B：概ね達成 (80%程度)    C：変化の兆し (50%前後)    D：まだ不十分 (30%前後)    E：目標、方策の見直し (20%以下)